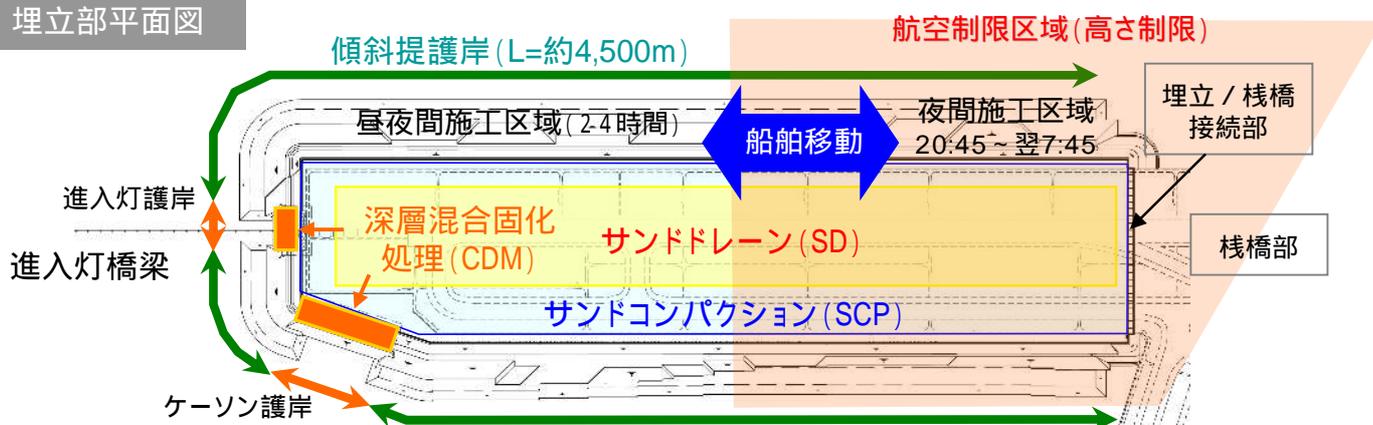


～ 護岸・埋立部の『地盤改良』全て完了～

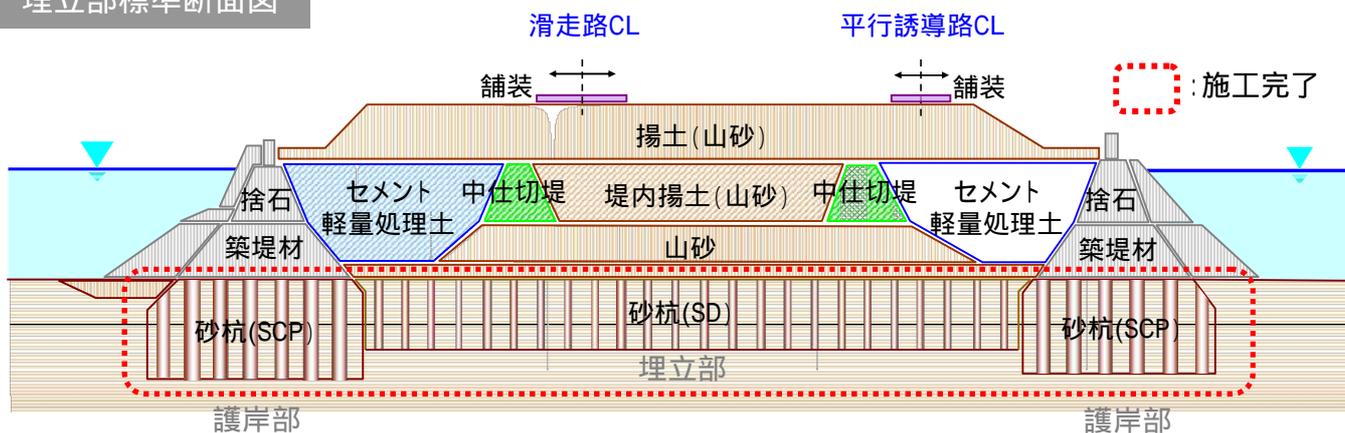
- ・軟弱な粘性土層が厚く堆積した海域に高盛土で海上最大約18m施工するため、海底地盤中に砂杭を造成して地盤改良し、護岸構造は沈下に対して追従性の高い傾斜堤護岸構造とした。
- ・護岸部には、サンドコンパクションパイル工法(SCP)を採用し、護岸内側の埋立部においては、粘性土地盤に含まれる間隙水の排水を促進させ、圧密による強度増加を図るため、サンドドレーン工法(SD)により地盤改良を実施した。
- ・今後は、護岸部に築堤材を、埋立部に山砂の投入を行い、急ピッチで施工を進めていく。

埋立部平面図



制限区域下での作業となるため、GPSによる作業高さ管理システムを採用。隣接船が効率的にアンカー作業を行うため、投錨管理システムを採用。

埋立部標準断面図



地盤改良 施工概要

SCP工法:H19.4.25～H19.12.12(完了)

SD工法:H19.7.11～H20.3.26(完了)



- SCP船 -	- SD船 -
配船状況 最大13隻体制	配船状況 最大4隻体制
船舶最大高 約80m	船舶最大高 約70m
施工数量(砂杭本数) 約7万本(2000)	施工数量(砂杭本数) 約18万本(400)
改良仕様 3.0m×3.5m, 30%	改良仕様 1.6m×2.5m, 3%